

## ■ 農作物の生育状況と今後の対策等（8月）

令和6年8月20日  
三八地域県民局地域農林水産部  
農業普及振興室

### I 土地利用型作物

#### 1 水稲

##### (1) 出穂状況

管内における出穂最盛期（50%進ちやく）は、平年より6日早い7月28日であった。

生育観測ほにおける「まっしぐら」の出穂期の平均は、平年より2日早い7月29日であった。

##### (2) 刈取適期

刈取適期到達の目安である出穂後の積算気温960℃到達日は、7月28日の出穂期（管内平均）で9月8日頃からと予想される。

地域によっては更に早まることも想定されるため、ほ場毎の登熟状況に十分留意する。

##### (3) 今後の対策等

ア 適切な水管理をする。

イ コンバイン、乾燥機等の保守・点検を行う。

ウ 刈遅れによる品質低下を防ぐため、刈取適期を迎えたら、速やかに収穫する。

#### 2 大豆

##### (1) 今後の対策等

べと病、アブラムシ類及び食葉性害虫などの病害虫は、発生状況を確認して適期防除に努める。8月中下旬にマメシンクイガ及び紫斑病防除を行う。

### II 野菜

#### 1 ながいも

##### (1) 生育の状況

ア 生育観測ほでは、植付の遅れの影響で、いも長、いも重、いも径は平年を下回っているものの、生育は回復傾向である。病害虫の発生は特に見られなかった。

イ 普通栽培では、つるがネット頂に到達し、茎葉が繁茂している。病害は、一部ほ場で葉渋病、炭疽病が発生している。害虫は、ほとんど見られない。

表1 ながいも生育観測ほの生育調査結果（8月9日現在）

年 度	定 植 期					つるの ネット頂 到達日	7月10日現在 (本年調査日:7月10日)			8月10日現在 (本年調査日:8月9日)		
	植付期 (月日)	種いも の種類	萌 芽				いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)	いも長 (cm)	いも重 (g)	いも径 (mm)
			始め (月日)	期 (月日)	揃い (月日)							
本 年 (平年比)	5/20 遅15日	ガンク欠	6/20 遅15日	6/22 遅14日	6/24 遅13日	7/12 遅6日	11.2 62%	3.0 34%	6.9 83%	45.0 90%	171.3 74%	35.2 93%
平 年	5/5	ガンク欠	6/5	6/8	6/11	7/6	17.9	8.7	8.3	50.1	230.8	38.0
前 年	5/2	ガンク欠	6/10	6/12	6/14	7/7	16.7	7.3	7.6	52.3	232.3	36.4

※本年の調査日：8月9日

※栽植様式：うね幅 120cm、株間 22cm (3,787株/10a)

※種子の系統：庄司系、使用種子の種類・重さ：2年子・120～150g

※平年値は平成26年～令和5年の平均値

## (2) 今後の対策等

- ア 明きよの設置等、排水対策を徹底する。
- イ 台風等の強風に備え、支柱の補強を徹底する。
- ウ 追肥は遅くても8月20日に終えるようにする。
- エ アブラムシ類、ナガイモコガ、炭疽病、葉渋病等の予防防除に努める。

## 2 にんにく

### (1) 令和6年産の生育経過と作柄状況

- ア りん片分化期は、平年並または平年より1～3日早かった。その後の気温が平年より高めに推移したことから、収穫期は平年より2～8日早かった。
- イ 球径は平年比100～107%、球重は平年比106～125%、収量は平年比98～125%となった。収量について、五戸・旧倉石・田子では平年を上回り、新郷では平年並だった。
- ウ A品率は、五戸・旧倉石では平年に比べて高く、6割以上となったが、新郷・田子では平年をやや下回った。
- エ 主な落等要因は割れと着色、りん片突出であった。
- オ りん片分化期から収穫までの積算温度は、白玉王（五戸・田子）が1039～1050℃、在来系（旧倉石・新郷）が906～926℃であった。

表2 生育観測ほの収量調査結果

場所・ 植付日	年次	りん片 分化期	収穫日	球径 (mm)	球重 (g)	収量 (kg/10a)	等級割合(%)				備考
							A	B	C	外	
五戸町 上兔内 (R5.10.3)	本年	4月14日	6月19日	63.7	80.2	1,337	65	32	2	2	白玉王 グリーンマルチ 積算温度 1050.0℃
	(平年比)	1日早い	(2日早)	(100%)	(106%)	(105%)	+7	+2	-7	-1	
	平年	4月15日	6月21日	63.4	75.7	1,273	58	30	9	3	
	前年	4月9日	6月16日	59.2	65.2	1,086	42	29	12	17	
旧倉石 又重 (R5.10.4)	本年	4月15日	6月13日	59.8	65.7	1,031	78	22	0	0	在来系 グリーンマルチ 積算温度 906.4℃
	(平年比)	平年並	(6日早)	(103%)	(110%)	(108%)	+36	-4	-27	-4	
	平年	4月15日	6月19日	58.2	59.6	953	42	26	27	4	
	前年	4月10日	6月18日	53.5	51.5	808	78	10	10	3	
新郷村 扇ノ沢 (R5.10.1)	本年	4月15日	6月13日	61.4	72.2	1,062	36	58	6	0	在来種 グリーン(無穴) 積算温度 926.1℃
	(平年比)	2日早い	(8日早)	(102%)	(106%)	(98%)	-10	+20	-7	-3	
	平年	4月17日	6月21日	60.4	68.1	1,087	46	38	13	3	
	前年	4月11日	6月18日	62.1	70.8	1,142	56	29	8	7	
田子町 日ノ沢 (R5.9.30)	本年	4月14日	6月18日	64.9	86.0	1,433	39	46	10	5	白玉王 グリーンマルチ 積算温度 1039.4℃
	(平年比)	3日早い	(4日早)	(107%)	(125%)	(125%)	-1	+11	-6	-4	
	平年	4月17日	6月22日	60.4	68.9	1,143	40	35	16	9	
	前年	4月10日	6月20日	57.6	63.4	1,057	60	19	19	2	

注) 平年値について

五戸は、R3から調査地点変更

五戸：H26年～R5年までの過去10年間の平均値

旧倉石：H26年～R5年までの過去10年間の平均値

新郷：H26年～R5年までの過去10年間の平均値

田子：H26年～R5年までの過去9年間の平均値（R2を除く）

等級割合はH26年～R5年までの過去10年間の平均値（田子は上記と同じ）

## (2) 今後の対策等

ア 土壌診断結果に基づく適正施肥を行う。

イ 種子は病害虫による汚染を防止するため、販売用と隔離して保管する。

ウ 9月下旬から10月上旬までの適期に深さ7cm程度に植え付ける。

エ 種子増殖「専用ほ場」を設置し、優良種子を購入して、計画的に増殖する。

## 3 トマト

### (1) 生育の状況

ア 生育観測ほでは、9段目の開花期が7月27日で、平年より12日早く、現在4～5段目を収穫中である。7月第4半旬から第5半旬の高温が続いた後、7月第6半旬は曇雨天となり、軟果や放射状裂果の発生がみられる。

イ 病害虫は、一部で灰色かび病の発生が見られるほか、オオタバコガによる茎や果実の被害及びアザミウマ類による白ぶくれ症状がみられる。

ウ 一般ほ場では、高温の影響で、落花や尻腐れ症状、軟果、裂果の発生がみられている。

エ 病害虫は、葉かび病の発生が一部で見られるほか、オオタバコガやアザミウマ類による果実被害が見られる。

表3 生育観測ほの生育調査結果（8月9日現在）

年 度	定 植 時			着 果 状 況							
	品 種 名	定植期 (月日)	育 苗 ・ 活 着 状 況	1 段 花 房		5 段 花 房		7 段 花 房		9 段 花 房	
				開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)	開花期 (月日)	着果数 (個)
本 年 (平年比)	りんか409 (自根)	5/5 8日早	良好	5/21 6日早	4.6 119%	6/27 7日早	3.5 136%	7/11 12日早	2.8 108%	7/27 17日早	(未定) —
平 年	りんか409	5/13		5/27	3.9	7/4	2.6	7/22	2.6	8/12	2.0
前 年	りんか409	5/10	良好	5/17	4.3	7/1	2.5	7/23	3.3	8/9	0.5

※栽植様式：畦幅 200cm、株間 40cm、条間 60cm、栽植株数 1,960 株/10a、  
黒マルチ栽培

※平年値はH20～R 5年の平均値

## (2) 今後の対策等

- ア 気象条件に応じたかん水・追肥を行う。
- イ 晴天日が続く場合は遮光資材でハウスを覆う。
- ウ 病害は、葉かび病や灰色かび病の防除を中心に予防散布を徹底する。
- エ 虫害は、アザミウマ類やタバコガ類の防除を中心に、早期発見、早期防除に努める。

## Ⅲ 農作業事故防止

1人で作業する時は、事前に家族等に所在を知らせておき、農業機械の操作を行う際は、周囲の安全確認や、ヘルメット着用などの事故予防対策に留意する。また、思わぬトラブルが発生した場合には、まずエンジンを停止させる。

## Ⅳ 農作業中の熱中症対策の更なる徹底

熱中症リスクの高い時期であることから、引き続き①こまめに水分をとる、②こまめに休憩をとる、③暑い時には無理をしないなど注意する。

## Ⅴ 農薬適正指導

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農薬は、周辺作物に飛散しないよう適正に使用し、使用後は、栽培日誌、GAPチェックリストに忘れずに記帳し、出荷前の確認を徹底する。